

フェスタ実行委員と劇人とのリモート会議（第3回）

日時：令和4年(2022年)11月21日(月) 19:00～

(全人協理事) **むすび座/吉田さんよりご挨拶**：コロナになってから、全国の劇人が集まるフェスタは開催できていないが、こうして3回目の会議をたくさんの劇人、特に飯田の実行委員が多数参加してくれて開催できることはうれしい。お互いの距離が近くなって、より両思いになれば良いと思う。

くすのきさん：まずは実行委員長の前田さんから今年の中止の経緯及び来年の開催方針についてお話しいただいて、そのあと副実行委員長北原さんの司会のもと、飯田から劇人へ問いかけをお願いします。

実行委員長/原田：本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。残念なことに今年もフェスタは中止となってしまい、皆様にはご迷惑をおかけしました。飯田では7月下旬、爆発的に感染が拡大し、そうなる住民感情等を考慮して、フェスタを開催するのは難しいと判断し中止とさせていただいた。飯田のフェスタは市民のボランティアによって成り立っている。参加してくれるスタッフ、地域の方々の思いを無視し、乗り越えて進んでいくことはできないと、中止の判断をした。もちろんそれは、劇人の方々のことはどうでもいいということではなく、今回こういった形で皆さんのお声も聴きながら、来年以降のフェスタをともに考えていきたいと思っているので、よろしくをお願いします。来年のフェスタの概要については次の通り。

●期間<2023年8月3日(木)～8月6日(日) 4日間>

●会場<例年どおり飯田市内各地にて>※2019以前よりは多少減る可能性あり

※**飯田市公民館閉鎖**→令和4年5月より飯田駅前ピアゴ跡地「丘の上結いスクエア」へ移転(ホールなし)

●テーマ<2022 テーマ踏襲「みんなの笑顔 待っとなるに」>

今年こそは何とかみんなで集まって、たくさんの笑顔に出会いたいという思い。コロナ感染対策をしっかりと実施して開催したい。まもなくA・Bタイプの募集要項が届くと思うのでそちらをご覧ください。

副実行委員長/北原：副実行委員長となって10年ほど、フェスタの2回目から通算で23年ほど、スタッフの募集・配属などを担当している。まずは皆さんの現状を最初にお聞きしたい。

わたぐも/伊藤さん：われわれ愛知県のアマチュアの話をする、最近フェスみたいなこともひまわりホールでやったし、ようやくポチポチいろいろやっている。もちろんコロナの前のように活発にはやれてないが。

青空共和国/山崎さん：今年は、飯田の地区公演をギリギリまで打ち合わせしていた中、中止になりとても残念。ずっと池袋でフェスをやっていて、ここ2回中止だったが、今年5月に開催。飯田と同じようにバッチを付けて全部観られる形式だったが、それは無理となり、完全各回チケット制になったが、できないよりはずっと良かった。自分の上演もいろいろやっていて、子どもたちと人形劇をつくる活動はコロナでできなくなっていたのが、この10月から再開。今は12月の上演に向かって取り組みをしている。

あっけらかん/ゴモトさん：愛知県で人形劇をやっている。この2年飯田には参加できずに残念。プロとして各地巡演しているが、この夏、喜多方、北名古屋、静岡いなさに全部参加できた唯一の劇団。各地の報告。

<喜多方>人形劇ほかいろんな劇団が集まる公演。市の公民館みたいなところが中心になった実行委員会形式で、規模はものすごく縮小されていたが、コロナでの中断なく開催。1・2年目は観客・スタッフ共に少ない状況だったが、今年やっと往年の人数が戻った。参加している子供たちの笑顔がだいぶ戻ってきたと感じる。

<北名古屋>小さなフェスティバルではあるが、30年ほどずっと人形劇だけのフェスティバルを続けてきた。コロナで2年間休止、今年の夏ようやく再開。観客制限半分、北名古屋市からの予算打ち切り、実行委員への職員を出せないという厳しい状況も、残った予算で5年でも10年でも続けたいと来年に向けて動き始めている。入場料を倍以上にしても観客の反応はよく、すぐに完売が出るなど人形劇をすごく待っていると感じた。

<いなさ>浜松市と引佐町の自治体と実行委員が一緒になって作り上げてきたフェスティバル。こちらも3年ぶりに今年の夏開催された。2年間は無観客/無料のライブ配信方式で、ようやく今年通常開催。今まで1回も観たことがないであろう小さなお子さん連れがたくさん、みなさん人形劇を待っていてくれたと感じた。

個人的には来年夏の飯田のフェスタを心から楽しみにしている。

プーク/伊井さん：民間の劇場ということもあり「劇場の灯を絶やさない」ということに終始した2年間。休業したのは東京都の緊急事態宣言時のみ。今年からはすべて行っている。やればやるほど赤字になるような上演の回もあったが、家族連れで行く場所がなかったのか「プークがあってよかった」という子どもたちの言葉をありがたく思った。公立の劇場が貸してくれないという事態が長く続いていたので、消毒や換気設備設置など感染対策を施して、公民プロアマ問わず稽古場やライブ配信会場として使用してもらった。今年最大の成果は「怪傑ゾロ」の公演を全国16会場で1か所の中止なくほぼ満席で開催できたこと。こういう時に優れた海外作品を求める声を強く感じた。不要不急ではない、待っている人がたくさんいる、と強く感じた2年間だった。

むすび座/吉田さん：キッズサーキット in 佐久の報告。[8/5-7 金一日で行われ、ここ2年は中止。実行委員会形式ではないので市民の声を聴く必要はなく、教育委員会等の主催で無事開催。コロナ前は自由席→全部指定席にして、体育館や平場の小ホールにブルーシートを敷いて、養生テープなどでマスク目を作って席番号を付け密を避けた。パスポートを買うと、4公演まで申し込みができるが、コロナ以降、当日販売なし事前予約のみにしたら、あっという間にチケットが完売。定員以上の予約を受けてしまい、当日会場変更するなどの対応が大変だったが、大きなアクシデントやクレームもなかった。]やはり人形劇が求められていると強く感じた。

実行委員長/原田：来年の開催について補足。来年の会場の使い方について、これまで飯田市の方針は定員50%などの規制があったが、来年は制限をあまり考えなくていいのかなという状況。ちょっとずつ飯田でも状況が変わって来ている。また、来年25周年ということで、5のつく年はアジアフェスをやって来たが、いきなりアジアフェスというわけにはいかないなので、開催することが最優先、今後のとっかかりとして、韓国/春川、台湾/雲林から劇団を招くよう手配を進めている。

副実行委員長/北原：スタッフ不足の話で、劇人の皆さんに問いかけたいことがある。2005~2010年の頃は、本部スタッフが400~450名ほぼ毎日来ていた。それが、ここ数年は約半分の220名ほど、しかも、半日などポイント的な参加がほとんどで、当時は若いスタッフを育てるような発想でやっていたが、それもできない状態になりつつある。それなら全国から集めようという話で、個人的な案だが、交通費や宿泊費をフェスタが負担したらどうか。まず声をかけたいのが劇人の皆さん。そこで問題点が4つ。①1日だけの人と、4日間ずっと参加できる人が同じ費用負担でいいのか、でも、そこに線を引いてしまうと絶対数が減ってしまうのでは？

くすのきさん：今回初参加の方に言っておくと、ボランティアが減少しているという衝撃的な話が前2回で報告されて、劇人から、スタッフをやってもいいよという話が出てきた、それを受けての提案になっている。

副実行委員長/北原：②飯田のスタッフは宿泊費交通費もなし、無給でお昼におにぎりを渡すぐらい。皆さんもそれと同じ条件で遠くから来てもらえるのか。③早い時期に募集するので、プログラムより先に持ち場が決まってしまう、思うようなスタッフができない可能性がある。④移動の問題。ホテルからの移動をどうするか。例えば、フェスタでレンタカーを借りて、誰かが運転、グループで移動、ということまでお願いできるのか。

ひとみ座/田川さん：劇団（プロ）からスタッフが行くのはすごくいいことなんじゃないか。大きい公演ではスタッフの仕事も行うので、質のいい対応ができるかも。②ただでいいのか。過去のフェスタの話聞く中で飯田に観るだけに行った先輩の話もあった。スタッフで行ったら観たい公演がタダとか、安く観れるとかなら行きたいと思う。④移動は同じ劇団で何人か行くなら、劇団からまとまって行くこともできるんじゃないか。

プーク/伊井さん：飯田のフェスタは劇人とまちの人たちが一緒につくり合うものだと思っているので、そのような声を振っていただけののありがたい。ただ、条件については、劇団の事情などある。自身フェスティバルのようなものを行ったことがあり、その時は学生にもある程度の手当は付け、プロにはお金を払ったので、無給は難しいかも。当日のスタッフなど、一緒につくるという意味では、大いにありだと思う。運営そのものに関わって、一緒になってフェスタのプログラムも含めて考えていけたらいい。

わたぐも/伊藤さん：愛知県と近いし、育てていただいたフェスタへの恩返しという意味でもそういう形の参加もあれば、積極的に声がけできると思う。ただ、条件面ではお金も絡むのでしっかり決めた方がいい。プロと

アマチュアでは立場が違う。アマチュアはスタッフに慣れない人も多いが、何らかの役には立つと思う。もちろん、交通費、宿泊費等補助をいただければうれしい。

京都女子大学/松崎さん：以前三穂の地区公演で4回生は上演、3回生が表方・裏方のスタッフをやった。飯田のスタッフが事前研修をやるように、ただその時だけの働き手でなく、少し長いスパンで、フェスタの理解と飯田の人や劇団との交流など、広がりがあると学生の学びが大きくなる。実際、どこのスタッフが不足なのか？スタッフ不足に対して、そのままの規模、形でやっていくのか、実行委員会は検討したのか。

副実行委員長/北原：最も足りないのが、表方の夜の部。昼間はまだ何とかなるが、夜になると会場によっては、市の職員一人がやっているという状態。セントラルパークも若手が入ってこないで、次の世代を育てることができない。中学生からやっているメンバーは30代になっているが、その下がいなくて困っている。

交流部会/香山：パレードはパークの若いスタッフが大型人形を持ってきていたが、若手がだんだん集まらなくなってきた、人形持つのが大変で、一般の人にも「大型人形持ってみませんか？」という募集をかけて劇団の方が来てくれたことがあった。いろんな形でかかわってくれる劇団があるんだということは実感している。

実行委員長/原田：こういう機会なので、飯田側の人、話を聞いてもらったらどうか？

副実行委員長/今村：子どもたちが一生懸命やっている人形劇を見てもらう機会がなかったが、地区実行委員会が先月子どもたちの発表会をやってくれた。そこであらためて飯田が持っている地域力を実感。飯田が何もしなかったわけじゃなく、コロナ禍でも子どもたちの思いを実現しようとしてくれた発表会の報告を。

公民館主事/青山：10/30、2会場で8校、112人の子供が発表した学校人形劇の発表交流会。保護者も95人参加。人形劇団あつけらかんさんとむすび座さんに講評やデモ公演をいただき、子どもたちが観る機会も設けた。当然主事も精一杯仕事はしたが、他に7人の地区実行委員の方に公演を支えていただいた。地区では文化祭や運動会で大変忙しい時期だったが、主体となって動いていただけた。普段のフェスタでも、自分たちの地区の公演は自分たちでやるんだ、子どもたちに楽しい公演を見せるんだという姿勢でやっている。子どもたちからは、フェスタで発表できなかったのも、できて良かった、プロのアドバイスを来年以降に生かしたいという意見もあった。このように次の年に繋げて行ければ、地区のみなさんも熱が冷めずにやれるんじゃないか。

あつけらかん/ゴマモトさん：あの日は、公民館スタッフの働きに舌を巻く思い、飯田の底力みたいなものを感じた。スタッフが子どもたちを迎える笑顔がとてもステキ。こんなに目のキラキラした中学生たちと出会えたことがうれしい。彼らが人形劇のことをとてもうれしそうに語っていたのが印象的だった。スタッフが厳しいという話があるが、一度小中学校で人形劇に関わった子たちは将来飯田の財産になるんじゃないか。

むすび座/吉田さん：「すごく感動した、本当に子どもたちがすごい、行けて良かった」と参加者から聞いた。

公民館主事/青山：地区の実行委員も5月のフェスタ前にフェスタへの想いや地区公演への想いについて聞いていただく会を設けている。今回スタッフとして呼びかけて、忙しい中来ていただいたのは、そういうこともあったのかなと思う。(先ほどの松崎先生のスタッフ事前学習や交流の必要性に関連して)

副実行委員長/北原：私もなかなか地区公演には行けてなくて、実は地区の方がレベルの高いことをしているのではと本部が心配になった。スタッフ問題については我々の方で練って、再度投げかける機会を持ちたい。

ひとみ座/田川さん：今年のフェスタについて、中止になってしまったが、広域公演で村判断で呼べた所と、呼べなかったところの違い、クレーム等あったかどうか。

事務局/田中：今年の状況は、9町村取り組んでいただき、3町村は申し込み無し、一つの町でプログラム非掲載という形を希望したところがあった。クレーム等は特になかった。

副実行委員長/今村：さっき伊井さんのお話で、表方でなくて、運営、今年はどういう風にやるか、ともにやっていきたい、というご発言があった。今後また企画運営やフェスタをどうするか、お話ししたいと思う。

プーク/伊井さん：飯田の存在は大きくて、ここ何年か海外劇団を招へいしてきたが、飯田のフェスタがあるから、ちょっと大きな作品を海外からも呼びたい、呼べるな。世界でも飯田のフェスタは大きなものと位置付けられていて、海外からも参加したいと思ってくれている。重ねてきたフェスタの役割がある。それを劇人とし

ては伝えたい。僕も小さなフェスティバルをやる中でフェスタのつくり方を飯田から学びたいし、同じ人形劇人として、世界に名だたるフェスタをどういう風につくっていくか、日々考え合っていきたい。

だぶだぶ/小島さん：プロの劇団にとってまずは上演することが第一なので、期間中にスタッフをやることは難しいと思うが、過去にプロの劇団が協力し合って、海外劇団招へいのための準備、公演のための舞台監督などの仕事を協力し合ったことがある。当日でなく、早い時期から協力するのならプロができることもある。

実行委員長/原田：実は、飯田でも海外の劇団を自分たちの力で呼んだりつくってみたいと思っているが、なかなかそこまで行けてないので、ぜひ劇人の皆さんがお持ちの情報やノウハウを参考にさせていただきたい。

日本ウニマ/玉木さん：舞台監督的な立場のスタッフは宿泊費などの経費を負担できるといい。会場係などはボランティアで頑張れるのでは、という京芸/山本さんの書き込み。舞台監督的なスタッフはやはり経費負担があるといいが、表方は、いろんな立場の人がいろんなかわり方ができるといいのではないかな。

副実行委員長/北原：我々スタッフの中では、舞台監督という位置づけがない。実際に人形劇団の方お任せでやっていただくので、裏方のスタッフは機材を運ぶだけだし、表方はお客さんを誘導するだけ。

日本ウニマ/玉木さん：例えば3、4日の間で1日はスタッフをやるけれども、他の日は自分の上演があるとか、観劇をするとか、そういう時に経費のことをどう考えるのか、検討された方がいい。

副実行委員長/北原：私もそういうことは考えている。その場合は半分でもいいんじゃないでしょうか。

京芸/山本さん：舞台監督といったのは、その日1日その会場にいて、責任者として回す人を固定してほしいと言っていたので、そのことを舞台監督と呼んでみた。

副実行委員長/北原：会場責任者ということですね。よくわかりました。

わたぐも/伊藤さん：アマチュアは表方だったら、ボランティア的にできるけれど、裏方は専門性とかあるのかなということで、プロには謝礼なり費用を払って、という棲み分けをしたらいいかな、と思う。

ひとみ座/田川さん：もし、スタッフのための経費を払うとしたら、公演の費用が圧迫されるのか？

実行委員長/原田：交通費等を負担するかどうか、財源をどう確保するかなどは決まっていない。劇人のみなさんの協力の可否を確認していくなかで、財源として新たな補助金なども今後考えていかななくてはいけない。

副実行委員長/北原：フェスタの自前予算が4000万円くらい、過去には文化庁から補助金をもらっていた年もある。再度もらうのは大変なことで、来年は無理。そこでクラウドファンディングの話が出てきている。4000万円予算だと特集を組んで行うのは無理。スタッフの費用を出すと、40-50万、Bタイプの公演が一つ減る計算。補助金も当然だし、時間もなく悩んでいる。

青空共和国/山崎さん：ずっとお世話になっている飯田で人が足りないということであれば、どうせ自腹で行くんだから、1日くらいそういうボランティアやります、という人はけっこういると思う。だから最初から宿泊費とか交通費とかいう話はしないで、とりあえず来年やってくれませんか、と声をかけたらどうか。

副実行委員長/北原：お金の話はなしで募集してみて、全然ダメだった場合悲しいし、難しいところ。

わたぐも/伊藤さん：アマチュアの立場から言うと、手弁当で参加するつもり満々。財政圧迫してまでだと持続しない。であれば、最初から条件出さないで、弁当の一つぐらいはという感じですけど。

クラルテ/藤田さん：ウニマの会長というより、クラルテとしてなんですけど、大阪でのフェスでもやはり人員不足があって、参加する劇団は上演だけでなく、何らかのことをやらなきゃいけない、という暗黙の了解がある。飯田でもプロであっても関わる以上は何かしら貢献できるような、意識を変えていくキッカケになれば良い。先ほどのスタッフの話で、中学生からやってきて、今30代でそのあとがない、というのはなぜか。

実行委員長/原田：最近中学生とかが忙しい。フェスタの時期に職場体験などと日程が重なったり、部活があったり、昔のように自由に夏休みを過ごせる状況ではない。また我々自身、中学生が時間があれば参加してみたいと思うようなフェスタをつくり切れてないこともある。ただ、外的要因が大きいのも確か。

京都女子大学/松崎さん：飯田の市民劇団が13劇団ほど新しいのができている。市外の方もいるが、上演と公演の手伝い両方前向きに関われる姿勢はないのか。枚方でも船橋でもアマチュア劇団が自分たちで人形劇連絡会

みたいなのを作って活動をしている。人形劇のまち飯田の核となっているフェスタを支えようというアマチュア劇団の動きがないのはなぜか。もっとアマチュア劇団と実行委員がもっと密に連絡を取ってもいいのに。

副実行委員長/北原：私も田辺という劇団に所属しているが、みんな本職をもっている現役世代なので、自分の公演をやるのが精一杯。プラスαの時間は取れない。ただ、年齢層の高い方であればもしかしたら。

交流部会/宮澤：アマチュア劇団同士の横のつながりは、人形劇のまちとしては欠けていると感じている。

副実行委員長/北原：私の所属している田辺という劇団は人間嫌いの人が多くて、特に横のつながりを持つとうとしない人ばかりなので、こうなっているのかな、と勝手に思っていた。

京都女子大学/松崎さん：でも「りんごっこ劇場」なんかは田辺の方たちが支えてくれている。劇団と実行委員双方が歩み寄れば何か生まれるかもという期待はある。

ひとみ座/田川さん：私も飯田出身だが、核となる部分の飯田の一般市民がもっと関わってほしい。そこがちゃんとしてないと、外から好きだよ、行きたいよって言うてくれても成り立っていかないんじゃないか。飯田のスタッフが少なくなってるのはすごく悲しいので、どうにかならないのかな、という気持ちは持っている。

副実行委員長/北原：飯田の中で実行委員が声をかけるとか、普通にPRというのはどっちもやった結果として現状がある。市内で打つ手がなければ、外から呼ぶしかない。今まで以外のことをやらないとダメだと思う。

法政大学/高柳先生：飯田線沿線では過去に地域で合唱劇などやってきた。当時は子どもたちがたくさん参加してオーディションで選ぶのが大変だったが、この頃は人が集まらなくて公演もできないとのこと。スタッフが集まらないのと共通する背景があるのかも。外から見ると飯田は人形劇のまちで多くの人が参加してという理想的な場という期待感を持ってきている。特に打開策はないが、これからも共に考えていければと思う。

総務部会/壬生：中学生からずっと裏方の事務をやってきた。やはりスタッフが減ってきたと年々感じている。昔だったら4日間フルで参加、事前準備も毎日だったのが、今のご時世や家庭環境の変化で、参加が難しい事情もわかるので、1日でも少しでも関われるという形を協力して作っていったらと思う。

副実行委員長/北原：やるといいことがきつとあるだろうけど、クラウドファンディングは大変だよと皆に言われていて、どうしたものかと悩んでいる。本職があるのでなかなか+αの時間を生み出すことができない。

実行委員長/原田：実際にクラウドファンディングを実施した劇団がいらっしゃるので、個別にお聞きしたい。会議は今回3回目で、参加が増えてきているのはうれしい。4回目、次回フェスタ前にこういう機会を設けることができれば、ご意見を聞かせてほしいとか、今日話したことでもっと具体的なお願いをすることもあるので、日程等、決まり次第ご連絡する。次回またご参加をお願いします。

くすのきさん：スタッフの問題については、継続的に協議ができればいい。規模が違うので何とも言えないが、喜多方などは中高生スタッフがむしろ増えているようなので、聞きたいことがあれば、お声がけいただければ。カーニバルからフェスタへ、劇人と一緒にやってきた、それを飯田市民が作るフェスタでやってきた、その流れの中で慎重にご判断いただければと思う。我々からも意見の場を作ってこられたことはよかったと思っている。情報や意見共有に、LINEでチャットできるような場を設けるので、ご利用ください。

むすび座/吉田さん：今回フェスタが中止になって、参加費について寄付の形にすると飯田からワッペンや水引が送られてきた。それだけで劇団では盛り上がった。全国の飯田に行きたいけど行けない劇人はそういうものをもらうだけで、すごくうれしいと思うので、チャレンジしていただく価値はあると思うが、クラウドファンディングを始めたらフェスタは必ず実施しなくちゃいけないとなるのでは。大変だが、支援を通じて良い交流が生まれるといい。

くすのきさん：お金の問題に関してクラウドファンディングもそうだが、飯田の規模であれば、ぜひ助成金取っていただきたい。来春あたりになると思うが、次回またこのような機会を設けたいと思うので、ご参加お声がけのほどよろしく申し上げます。今日はありがとうございました。